

令和6年9月30日発行



こぶし

学校だより 10月号
東久留米市立第十小学校
校長 大澤 宏史

「巧みな手を育てる」 引き継がれる伝統 竹の子まつり

主幹教諭 小池 広之

夏休み、44年前に図工専科をされていた山本先生を本校にお招きました。山本先生は、本校の特色ある教育の「竹とんぼづくり」が始まった年に、中心になって取り組んだ先生です。十小の教職員に当時の教職員や地域の方々が子供たちと一緒に竹とんぼ作りをしてきたエピソードをお話ししていただきました。

本校の竹とんぼづくりは、1980年(昭和55年)から「巧みな手を育てる指導」という研究テーマとして始まり、11年間継続して実践されてきました。「巧みな手」とは、手先の器用さのことを考えているのではなく、自らの体で、直接的に様々なものを実感していくことで、経験に結び付いた学びができると考えていました。

そして、「巧みな手」の位置付けが、「物を作り出す」という活動から、学習や友達関係、人間関係をつくり出す様々な活動へと発展していきました。作った竹とんぼを飛ばして競い合う行事「竹とんぼ大会」が始まり、十小の伝統行事「竹の子まつり」として現在も毎年行われています。

当時はこの特色ある教育が注目され、マスコミの取材も行われて全国に知られました。本校が「全国竹とんぼ大会」の会場としても使われていました。毎年開会式で全校児童が歌う「竹とんぼのうた」は、当時の高学年の児童が作詞、作曲した歌です。子供たちが歌いながらメロディーを考えて時間をかけて曲にしていきました。

山本先生は、現在もこの行事が形を変えながらも引き継がれていたことに大変嬉しく思っていました。

私たち教職員もこうした背景や当時の方々の思いを知ること、竹の子まつりが、子供達にとって意義のある活動にしていきたいと感じました。

今年も十小の子供たちは、時間を忘れるほど竹とんぼ作りをしています。高学年が低学年に優しく竹とんぼの飛ばし方を教えているほほえましい姿が見られます。

竹の子まつりは、保護者も参加できます。ぜひ一緒に長く引き継がれている十小の伝統行事を楽しんでください。

※行事予定表は、ホームページ上での公開はしておりません。ご了承ください。

～チャレンジ三年生！～

担任 本橋 治 折笠 楓太

三年生では、どんなことにもあきらめずにチャレンジしてほしいという思いで指導しています。活動では、竹の子まつりに向けてお囃子の練習や竹とんぼづくりなど新しいことにもチャレンジしました。また、算数「円と球」の学習では、新しい道具「コンパス」を使い学習をしました。どんどん新しい道具や学習が始まって楽しく元気に取り組む姿が素敵です。



～4年総合「みんなの黒目川」～

担任 小池 広之 星野 浩明

9月26日（木）に総合「みんなの黒目川」の学習の一環として、4年生が黒目川に入り、体験学習を行いました。ゲストティーチャーである豊福先生の指導を聞き、ホトケドジョウやアブラハヤなどの魚を捕まえました。想像以上にたくさんの魚たちがとれたためか、子どもたちも大喜びでした。なかなかできる体験ではありません。貴重な体験を通し、子どもたちは、改めて黒目川について、理解を深めました。



図工室より

図工専科 開本 夏美

図工の授業では、1月の展覧会に向けて作品づくりに取り組んでいます。今回の展覧会のテーマは、全校児童がキーワードを考え、代表委員会の児童が素敵なテーマにまとめてくれました。それはずばり……

“自然豊かな十小美術館 ～笑顔かがやく夢の世界へ～”
です。十小のいいところである“自然”にたくさん触れながら、子供たちや保護者の皆様、地域の皆様が“笑顔”になれるような展覧会を目指していきたいです。



3年生では、校庭で集めたいろいろな色の土で絵の具をつくり、思い思いの絵を描きました！

♪音楽室より♪

音楽専科 遠藤 由花

音楽科では、2学期はグループ活動や発表を中心に授業が始まっています。グループで話し合いながら、自分達の音楽を発表して、お互いの工夫したところや良さを認め合っています。これからも、音楽を通して互いを尊重する心を育て、皆で音楽を創る楽しさを味わえる活動をしていきたいと思っています。



♪グループ発表の様子です。堂々と発表できました。

